

ハレとケ

長久手市文化の家情報誌

2021/10 ▶ 2022/03

Vol.
13



長久手市文化の家
NAGAKUTE Cultural Center



会員募集コーナー



NAGAKUTE CULTURAL CENTER FRIENDS MEMBERS CARD
フレンズに入ってもっとお得に楽しもう！

【フレンズ会員特典】

- ①文化の家自主事業公演チケットの割引
- ②文化の家自主事業公演チケットの先行発売
- ③機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
- ④フレンズが行う文化事業、交流事業への参加



フレンズとは？

文化の家ではオリジナル企画をはじめ、音楽・演劇・伝統芸能等、いろいろな自主事業を行っています。フレンズ会員になると、チケットの先行発売や割引等のさまざまな特典があります。

| | | | | | |
|------|-----------|----------------------------------|--------|--------------------|---------------------|
| 【会費】 | 個人会員 | 年額1,500円(10月1日以降に入会の場合は1,000円) | 【有効期限】 | 入会后、最初に訪れる3月31日まで。 | |
| | 家族会員 | 年額1,000円(機関紙・事業案内等の郵送はありません) | | 【入会・更新方法】 | 文化の家1F受付へお申し込みください。 |
| | 法人・グループ会員 | 年額15,000円(10月1日以降に入会の場合は10,000円) | | | |



映画好きの仲間が集まった市民団体。
映画上映会の企画・運営をしています。

- 日時** 毎月第1木曜日：定例会議
毎月第2木曜日：シネマの楽しみ（上映会の開催）
毎月第4木曜日：試写会

場所 長久手市文化の家
問合先 rikimaro8194@tg.commufa.jp（代表：野田）

長久手市合唱団 ニューセンチュリーコーラス Nagakute

長久手市文化の家を拠点に活動する混声四部の合唱団です。
学生から年配者まで幅広い年齢層で構成されています。

- 日時** (原則) 毎週金曜日 夜間
場所 長久手市文化の家 音楽室
会費 3,000円/月
問合先 nagakutechorus@gmail.com

長久手市劇団 座☆NAGAKUTE

長久手市文化の家を拠点に活動する劇団です。
現在、10代から70代までの幅広い年齢層、様々な経験の人で構成されています。
入団希望の方は、まずは活動風景を見学しに来てみてください！

- 日時** (原則) 毎週金曜日
場所 長久手市文化の家 舞踊室
会費 3,000円/月

※見学希望者は活動日前日までに文化の家までご連絡ください。



〒480-1166 愛知県長久手市野田農 201 番地
お問合せ：0561-61-3411

地下鉄 藤が丘駅
リニモ はなみずき通駅 徒歩7分
車 8分 (徒歩25分)
名鉄バス 長久手文化の家北 徒歩4分
愛知医科大学病院行き(4番乗り場) 菱野団地行き(5番乗り場)
名古屋 長久手 IC 車 10分
※駐車場の台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

長久手市文化の家 official
@bunkanoie
公式 Web サイト



特集 創造スタッフの10年

— 文化の家のアーティストたちのこれまでとこれから

文化の家の自主公演を支えるアーティスト集団、創造スタッフ。開館以来50人近くのアーティストが在籍してきました。数々の公演制作に携わり、文化の家の顔とも言える彼らの10年間を振り返るとともに、劇場とアーティストのこれからの未来について語り合いました。

進行役：生田創（文化の家 館長補佐兼事業係長）



劇場がどうい場所かとか、全然わかっていなかった。それを知れたことが大きいと思います。

生田 創造スタッフとして活動する前の文化の家のイメージは？

石川 レンタルスペース。

小田 同じです！ カルチャーショックでした。

生田 そうなんです（笑）。レンタルスペースというイメージから、どう変わりましたか？

石川 おんぱくなど、地域に向けて何かやっていることが新鮮でした。フリーランスの人のことも考えてくれていて、ありがたいと思いました。創造スタッフの活動を通して、自分自身の活動や表現の考え方も変わりました。音楽で言えば、文化の家が評価して招聘する一流のアーティストがきて、一流の音楽を知る事ができる。それがお客さんにどうい風を受け取れるか、いろいろな世代の受け止め方を知ることができました。

生田 いろんな人がいろんな意見を言う、そういうおもしろさがあるかもしれませんね。人が変化していくと、ただのハコモノから意思を持つ「ハコ」になっていくことですね。



—— 藤島さんは情報系の創造スタッフでしたが、最終的に演劇系になって、活動内容がかなり変化しましたね。

藤島 自分でもびっくりするくらい入った時と出た時が違いました。情報系は文化の家と市民の間で、文化の家のことを広める人だと思っていました。最初はなんで自分なのかと思いましたが、役者としても自覚はありませんでした。でもいざ入ってみると、フリーランスでちゃんと活動している人たちと一緒に会議をする中で、自分の自覚のなさをすごく感じました。やるぞっていう気持ちがない。絶対俳優でやっていくという気持ちも全然ない。おんぱくやクリスマスコンサートなどもあって、藤島えり子として、俳優として立てる人にならないといけないという気持ちになりました。そこから個でがんばろうと思いい、企画するようになりました。

生田 1年目が終わって藤島さんにどうですかと聞いた時、正直やめると言われるのではないかなって思っていたんです。しかし、藤島さんはかえってやりやすいと言っていたのが印象的でした。もし俳優の仕事だったら荷が重い。普段やらないことだからかえって気楽だと。しかし、最後



いことだからかえって気楽だと。しかし、最後の2年間は役者としての追い込みがすごかったですね。

藤島 情報系として発信するよりも、役者として発信した方が作用が起ると思ったんです。Twitterとかでも、知られていなければ「誰だよこいつ」と思われます。でも役者であれば、つながっていくきっかけができます。

生田 創造スタッフ制度は他のホールからの視察でも好印象なんです。しかし広まらない。創造スタッフには、他の組織ではできないような柔軟な活動を認めています。多くの劇場では、説明しても「うちでは難しい」となってしまっているんですよ。

—— 豊永さんにはすごい勢いでたくさん企画をしてもらいましたが、4年間でこだわったことはどんなところですか？

豊永 劇場はレンタルスペースではないという考えから入っています。ここをレンタルスペースではないものにしたかったんです。

生田 文化の家を「イイ感じ」にしてもらったと思っています。こんなことができるんだ、かつ



藤島えり子（情報系・演劇系）

任期：2015年～2019年
文化の家の情報を発信する情報系として採用されたが、俳優として活動していることを活かして、任期の後半からは演劇系としても活動。創造スタッフの新しい可能性を示した。



石川貴憲（音楽系）

任期：2015年～2018年
サクソフォン奏者として、本格的なコンサートからアウトリーチまで多彩な演奏活動を行っている。現在は文化の家フランチイズアーティストとして、福祉施設でのアウトリーチも積極的に実施。



リモートでも参加してもらいました！



豊永洵子（舞踊系）

任期：2017年～2020年
コンテンポラリーダンスの様々な公演を企画。文化の家でのダンス公演を定着させた。また、ダンスと他分野とのコラボレーションによる独創的な企画も数多く展開。



橋寛憲（美術系）

任期：2012年～2020年
創造スタッフの中でも最長の任期を務め、数多くの企画制作に携わった。造形作家としての作品制作から、ワークショップや脚本の制作まで、幅広い技術と知識で文化の家を支えてきた存在。



小田智之（音楽系）

任期：2021年～
今年からメンバーに加わった期待の新星。作曲・演奏ともにこなす実力があり、初参加のおんぱくでは卓越したパフォーマンスで早くも存在感を焼き付けた。

生田 創造スタッフという制度について、任期の長かった橋さんは、10年経って感じる変化はありましたか？

橋 仕事を増やしすぎちゃったのはあると思います。美術は特に仕事が少ないので、あれもこれもやって結果的に首をしめてしまいました。

生田 その点はスタッフである我々にも責任があります。橋さんの仕事ぶりがすばらしく、クオリティという点でハードルはかなり上がったと思います。この10年間、創造スタッフもメンバーが変わっていききましたが、橋さんからみて、雰囲気などの全体像の変化はありましたか？

橋 どんどん若返っていくので、自分との年の差が広がっていききましたね。音楽は楽器も変わるし、毎回メンバーごとの色がある。一人の観客としても楽しませてもらったと思います。

生田 毎年恒例になっている「創造スタッフ冬のコンサート」（※2021年度からは「創造スタッフ劇場」と改称）は、創造スタッフ全員で制作するため、年によって変化があったと思いますがどうでしたか？

橋 みんなでやる分、自分の任期が長くなってよくなかったと思うことがあります。最年長になったときに、気を遣わせてたらどうしよう、本当はもっと違うことがやりたかったんじゃないか、大丈夫かと思ったことはちょくちょくありました。

石川 クリスマスコンサートは美術の人によく引張ってもらえたと思います。自分はクラシック一本勝負でやっていたため、ほかのものとコラボしてやるのは創造スタッフになったからできたことですね。なかなか貴重な機会でした。

生田 石川さんは2015年から4年間創造スタッフを務めていただきましたが、自分の中での変化はどう感じましたか？

石川 当初は卒業したてで何も知らない。表現のこともですが、そもそも社会のありかたとかいい！という感じ。公共ホールは回収率の問題もあるんで、なかなかダンスに手を出すことができません。

豊永 回収率はいつも課題になりますし、克服する努力はしています。コンテンポラリーダンスに人が入るようになれば、わからないものの許容量が増えると思うんです。そうなる前衛的な演劇や現代美術も見られるようになって、劇場はお客さんに困らなくなるんじゃないでしょうか。ふらっと見ていってくれるお客さんが増えると、成果が出た感じがします。

生田 豊永さんの企画は共同作業が多かったですが、経験の少ない劇場職員が関わるのは難しい分野でもあります。職員との意識のギャップをどう克服していったんですか？

豊永 とにかく巻き込み型。気付いたらみんな巻き込まれているという感じです。それに文化の家のスタッフとの関係が良かったこともあると思います。お客さんに楽しんでもらえるのがもちろん良いですが、いちばん近くにいる人たちが好きでいてくれる。アーティストだけでなく、スタッフと雑談できたのが、いろんな人を巻き込むうえで必要なことだったと思います。

生田 コミュニケーションができればいろんな劇場でコンテンポラリーダンスをやるきっかけも作れますね。

—— 小田さんは大学を卒業後すぐに創造スタッフになってもらいました。まだ4か月ですが、どうですか？

小田 最初にお話が来たときは僕でいいのかなという気持ちがありました。クラシックをまじめにやってきたタイプではなく、クラシックの練習をするならゲームの曲を弾くというタイプ。公共ホールで普通の人としてやっていけるのか不安でした。創造スタッフになる前は、おんぱくなどの公演以外は大きくはないと聞いていましたが、実際に入ってみたら小さい公演も本格的に制作していて驚きました。

生田 みなさんの中にある創造スタッフ像と、これからの創造スタッフの未来について、ご意見を聞かせてください。

小田 サイコロの目がたまたま自分に回ってきて、場をいただいているような感じ。自分自身と向き合っている方々がいるのがすごいことだと思います。創造スタッフを通じてつながるきっかけになっている。この空間にいられることがありがたいです。これからはデザインする人や映像を作る人や、プログラムを作る人など、今まで裏方だった人が前にでてクリエイティブな時代になっていくと思います。自分はエレキトリックも生も好きなので、両方のいいところを取り入れた音楽ができればと思っています。

藤島 私は文化の家で普段やっていないような、初めてのことをたくさんやらせてもらいました。普段劇場に行かなかった人を、劇場らしくないことをやって巻き込んでいく人が創造スタッフなのかなと思います。今後は、音楽系とか美術系とかの肩書がなくなるといいなと思っています。ジャンル分けした方がやりやすさはあるんですが、そういう垣根をとばらって首をつっこんでいくことができたらもっとつながれるんじゃないでしょうか。

石川 制限されない場が創造スタッフ。遊び場を与えてもらっているという感じです。そういう場はとても貴重だと思います。表現することが上からの押し付けになっていないか考えることもありますが、結局自分の作りたいものを作ること、いいものが提供できる。考えすぎずにいいものを作る、遊びの部分があればそういうものが作れるようになるんだと思います。

豊永 他のジャンルの人がいるからこそ、自分の軸を考えました。ジャンルがあるからできたこともあって、自分の専門性を、自分の専門の中だけでは深まらない方向へ深めていくことができたと思います。公共を公共で超えていく。公共ホールっぽいものにせず、公共ホールがや

れるぎりぎり攻めながら発信できるのが創造スタッフのよさだと思います。

橋 専門性はもっていかないといけないですが、その上で本気で遊ぶ、技術の無駄遣いをする。創造スタッフは文化の家の中で一番自由に動ける遊撃隊。場をかきまわして、凝り固まらないようにすることが大事だと思います。行政っぽくないこと、ここでしかないことをいつも考えていました。協調性のない好き勝手ではなく、全員が楽しんでやれることが大事。みんなが笑える範囲で、大人が本気で遊ぶ。みんなですごいものを持つてくるのが、創造スタッフの持ち味だと思います。

生田 文化の家は本当に人に恵まれています。我々のような劇場職員の姿勢も重要ですね。アーティストを邪魔しないように、これからも遊び場を作っていかなければいけませんね。



創造スタッフ 10年の軌跡

恒例になった冬のコンサート



クリスマスの音跡



立音米
デリーバリー

児童館でも演奏しています



サンタのオルゴール



創造博
創造スタッフ全力のコンサート



福祉施設で訪問演奏 思わずハイタッチ



ダンスと演劇の新しいカタチ



撮影：堀池典隆



おんぼく
しほんださん
演劇系だけで踊っちゃった!!



澁さ知らズとのコラボレーション!

撮影：堀池典隆



ホール見学の
show



笑顔で支えるパーカッショニスト



ダンボールの雪だるま 実際にも創造スタッフ!



針金を使った作品づくりのワークショップ



桜まつりで演奏 桜舞う中「春よ、来いっ」



情報ラウンジで演劇公演。
涙をすすめる音があちこちから。



女子3人の初企画

フルード、ダンス、朗読のコラボレーション



撮影：堀池典隆

文化芸術 地域デザイン講座

長久手市 編

文化芸術への取り組みや、文化施設が地域にもたらす効果を紹介する、『文化と地域デザイン講座』が新たに始まりました。2017年に制定された文化芸術基本法では、文化芸術に関する施策の推進に「観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業」の各分野との有機的な連携が求められています。そこで、本講座ではこれからの公立文化施設の方向性のほか、各分野に文化芸術が織り込まれた事例を紹介し、文化の家をはじめとした長久手市全体の文化政策を考えていきます。

講師には、医療現場にアートを届けるホスピタルアートの研究者、京都市の文化施設を市民開放型に切り替えた元京都市文化芸術政策監、指定管理者制度の実態に詳しい現職の横浜市文化振興課長の3名をお招きし、コーディネーターには全国の文化政策及びアートマネジメントに精通した静岡文化芸術大学の教授をお招きします。

終了

医療現場で芸術を展開する / ホスピタルアートの可能性

2021年8月20日(金)に開催。病院へ入院することでおざりになる「個としての人間の尊厳」を、芸術を用いて回復するホスピタルアートの効果について、英国や近畿大学での事例からご紹介いただきました。



森口 ゆたか (もりぐち ゆたか)
近畿大学文芸学部教授
NPO法人アーツプロジェクト副理事長



講演の様子はYouTube文化の家チャンネルにて公開中!

公立文化施設が「まち」を変える / 京都会館からロームシアター京都へ

観光・集客・まちづくりに貢献するため市民開放型へ切り替えた、ロームシアター京都の初代館長をお招きし、文化施設が地域にもたらす効果を紹介いたします。

- 日時：2021年11月5日(金) 18:30～
- 会場：光のホール (配信あり) ※無料

平竹 耕三 (ひらたけ こうぞう)

京都産業大学文化学部教授
KYOTO STEAM-世界文化交流祭-プロデューサー



未来の公立文化施設はどうなっていく? / 岐路に立つ指定管理者制度

指定管理制度に詳しい横浜市文化観光局文化振興課長をお招きし、公立文化施設の指定管理者制度の現状や未来像を考えていきます。

- 日時：2022年1月7日(金) 18:30～
- 会場：光のホール (配信あり) ※無料

鬼木 和浩 (おにき かずひろ)

横浜市文化観光局文化振興課長
(主任調査委員)



コーディネーター

松本 茂章 (まつもと しげあき)

日本アートマネジメント学会会長
文化と地域デザイン研究所代表
静岡文化芸術大学文化政策学部教授

【申込方法】

会場へお越しの方

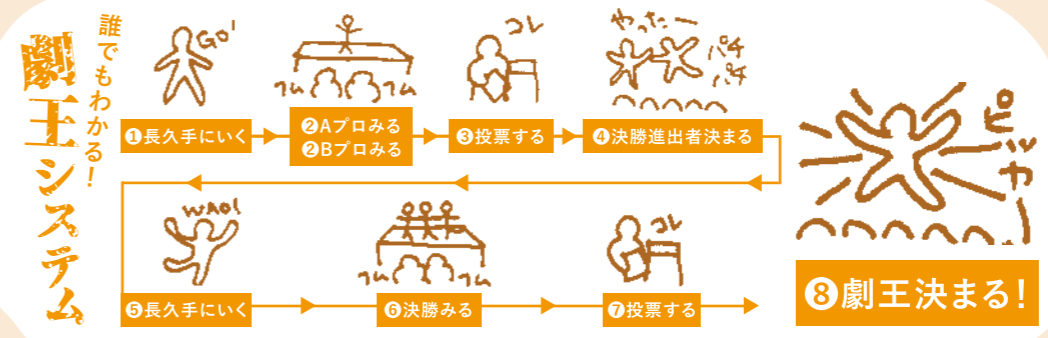
▶文化の家へ電話申込

オンライン参加の方

▶市HPから申込フォームへ



役者3人以内
上演時間20分以内
短編演劇の新作が盛りだくさん!



日本劇作家協会東海支部長 渡山 博崇氏に今回のみどころを直撃

こんにちは。来年も文化の家に『劇王』がやってきます。短編演劇の祭典であり、全国各地に短編劇コンテストを普及させるきっかけになったイベント、それが『劇王』です。前回『劇王2020』は日本劇作家協会東海支部所属の劇作家が多く出場し、東海地区の劇作家およびその作品を紹介することを重視してきました。『劇王2022』でもそのコンセプトを引き継ぎつつ、今回は東海支部に所属していない劇作家にも門戸を開く試みを行います。文化の家戯曲セミナー、げきたまご、ナビチリーディング、様々な劇作家を育成する場が、それぞれの代表者を選出して『劇王』に参加します。その3名と東海支部からの選出者4名、そして2021年2月に光のホールで開催された『リーディング劇王』勝者、劇哲王・斜田章大を併せた8名が、第12代劇王・関戸哲也に挑戦します。劇作家たちが己の最新作で戦う、その切磋琢磨する成長と発見の現場をお見逃しなく。

長久手演劇王国vol.20 日本劇作家協会東海支部プロデュース Jr.ライト級チャンピオンタイトルマッチ 劇王2022～人生を変える20分～

[日 時] 2022年2月5日(土) 14:00～ Aプログラム 18:30～ Bプログラム
6日(日) 15:00～ 決勝戦
[出場者] Aプログラム・Bプログラム：近日公開!
決勝戦：関戸哲也(第12代劇王)
AプログラムとBプログラムの勝者
[会場] 風のホール
[料 金] 未定 ※全席自由 ※未就学児入場不可
[審査員] 未定
[発売日] フレンズ会員：12月4日(土)、一般：12月11日(土)

長久手発祥の短編戯曲コンペティション「劇王」は、審査員だけでなく観客も投票できる参加型のイベントです。演劇初心者でも参加しやすいシステムが話題を呼び、現在では全国に広まっています。あなたの一票で劇王が決まるその瞬間に、ぜひお立ち合ってください!

今年も劇王の季節がやってくる。

おんぱく 2021 開催レポート
 —アーティストが切り開く明日—



昨年できなかったおんぱくが
 今日できているということは
 我々の世界は間違いなく
 前に進んでいる。
 (渡部真一/ヴォーカル)



浜さ知らズオーケストラによる、おんぱく2021の本公演は開演から終演まであっという間に駆け抜けていきました。終演後、感動と喜びによって来場者の間にはその場を去りたい空気が流れ、みんな距離をとりつつも、しばらくの間、館内にはぎやかな雰囲気包まれていました。

おんぱくに参加したすべての人が、浜さ知らズの音楽を通して、「世界は決して止まったりはしない。みんなもがきながらだけど、ちゃんと前に進んでいる」ということを感じたはず。希望や勇気、元気をもらい、様々な想いを湧き上がらせてくれる、そんなおんぱくでした。

また、リアルタイム配信も行ったことで、会場で体感した人だけでなく、画面を通して公演を視聴した何千人という人にも間違いなく伝わったと思います。離れていても共に音楽を楽しむことが可能だということを証明してくれたのが、今回のおんぱくでした。

今年の4月に開いた実行委員会では、たくさんの人と触れ合いながら楽しむおんぱくは、開催が難しいかもしれないという空気が流れていました。しかし、実行委員やスタッフの、なんとかして開催したいという想いのもと、定員を制限した公演と生配信というハイブリットスタイルでの開催が決まりました。また、創造スタッフによるオンラインコンテンツを多数作成して、当日の公演に結びつけるように工夫をし、コロナ禍ならではのオンラインを活用した新しいおんぱくの形を模索しました。

今回のおんぱくにはアーティストたちの存在が欠かせませんでした。公演当日は創造スタッフをはじめとした文化の家のアーティストたちも、浜さ知らズオーケストラとすべての曲をステージで共演し、素晴らしい活躍をしてくれました。来場者からは「人と音楽の力を感じた!」「久しぶりに音楽に包まれて泣けるほど楽しかった」「YouTubeコンテンツがよかった」「ありがとう!」などのたくさんの声をいただきました。

おんぱくに関わったすべてのアーティストたちの力が結集して、コロナ禍であっても最高の形で感動を運んでくれました。

以前までのおんぱくのように、みんなで楽しく触れ合いながら、たくさんの人と同じ空間でおんぱくを楽しめるのはまだまだ先かもしれませんが、しかし、私たちは希望を失わずに待ち続けることができるはず。そこにアートがある限り。

SNSも盛り上がったよ!



@onpaku-SNS-comment
 久々の浜さ知らズオーケストラ。MCが小さなお客様向けに笑ったw おんぱく、オブジェやスタッフさん達の衣装が素敵だった。手作り感満載で楽しかったな。

@onpaku-SNS-comment
 小さな画面から音が溢れ出す。この時には戻れないかもしれない。でも、失ったものを取り戻すことはできるかもしれない。そう思えた、そう感じた、救われた「おんぱく 2021」最高でした。。

@onpaku-SNS-comment
 7月5日からずっと入院してたからこんな楽しいライブ配信観れてほんと嬉しい。マジで涙が止まらない浜さ知らズありがとうございます。おんぱくありがとう



いいね! : onpakusuu, 他
 aaabcd_123 嬉しかったマラスを嬉しよりもジャンジャン鳴らしてノリノリで楽しめました!! やー、最高だった
 #おんぱく 2021 浜さ知らズ #オンラインライブ #長久手市 #長久手市文化の家
 コメント 3 件すべてを表示
 777_nanao すごい!!
 | aaabcd_123 777_nanao 最高に盛り上がったよ~!!
 2021年8月10日



撮影: 堀池典隆

小西 祐矢 (造形)

上半期あっという間に過ぎたようで、でもすごく充実していたように思います。異分野のクリエイターたちに混ざって一緒に表現し、発信していくことができるのは本当に楽しくて、幸せなことです。短い期間の中にもいろんな表現の可能性を感じました。様々な連携のあり方から様々な種類の体験を生み出すことができるのが創造スタッフの力だと思っているので、これからも挑戦心と遊び心を持って、最大限に力を合わせて新しい感動をお届けできるように尽力したいです！

小林大地 (造形)

今年度でラストの小林大地です。上半期はなんと言っても「おんぱく」で本当にいい作品ができました！館内装飾よりも牛を作りたいという元創造スタッフ橋さんの自由な思いつきにより、新創造スタッフ小西君と3人のアイデアや技術を存分に盛り込み、久しぶりに思う存分気持ちのいい制作でした。下半期は、ながくてアートフェスティバル、創造スタッフ劇場、創造スタッフ二人展が控えています。心残りのないラストになりますように！

弓立翔哉 (打楽器)

今年度最大のイベントとも言える渋さ知らズをゲストに迎えて開催された「おんぱく」が終演しました！本番当日は渋さ知らズのメンバーと共に我々創造スタッフも舞台上で共演させていただき、ぶっつけ本番の曲や、ソロ回しなどとても貴重な経験をさせていただきました！めちゃくちゃ楽しかったなあ。後半にも創造スタッフ劇場など、創造スタッフ企画の様々なイベントがまだまだたくさんあるので、全力で挑んでいきたいと思っています！

小田智之 (作曲)

創造スタッフ1年目ということで、先輩方から色々教えてもらいながら、経験を積んでいく上半期でした。特に7月から8月にかけて行った、おんぱく2021が印象的でした。渋さ知らズオーケストラのライブに私自身も急速全曲参加させていただき、非常に刺激的な時間を過ごしました。下半期も近づいてきていますが、今後は他分野の方とのコラボレーションにも取り組み、より丁寧に音楽表現を掘り下げていきたいと思っています。

林友里菜 (舞踊)

創造スタッフに加入し、あっという間に約4か月が経ちました。上半期の活動において親子参加型WSを開催できたことは私にとって大きな一歩でした。参加者の皆さんの笑顔と楽しそうに取り組む姿を拝見し、どんな状況であっても芸術やエンターテインメントは決してなくては行けないものであり、多くの方に元気を与えられる大切な時間なのだを再認識させていただきました。今後は舞台公演への挑戦と文化の家全体をステージにした公演を開催したいと企んでおります！様々な芸術を一堂に集め、芸術を身近に感じる機会を増やしていきたいと思っています。この企画を開催する際は、是非覗きにきていただけますと嬉しいです。

大脇ぱんだ (演劇)

今年の上半期は「おんぱく」の衝撃が凄すぎました(笑)。あんなにカッコイイ大人の遊びをする人たちがいるのか！と！今年も相変わらずコロナが猛威を奮っていて、ことごとく芝居の公演が延期になり、寂しい思いをするかと思いきや、文化の家で活動していると元気になるので、たくさん文化の家で活動出来たらなあ。と思っています。冬には朗読シリーズ第3弾があるのでめちゃくちゃ楽しみです！また、ガレリアとか、みなさんが立ち止まって見られる様なスペースでやりたいなあ。創造スタッフメンバーで、それぞれやりたい事は相談しているのでみなさん楽しみにしてくださいね！

Question 「上半期の振り返りと、今後やってみたいことは……？」

文化の家 創造スタッフ紹介

高い芸術性、卓越した専門性に基づく豊富な知識や優れた技能、技術を活かし、文化の家職員や外部のアーティストなどと連携を図りながら、文化の家の創造的事業の企画や実施、運営に携わります。

文化の家アーカイブズ 過去の公演シリーズ

おんぱくの歴史

文化の家の夏の一大イベント「おんぱく」は2004年から始まり、今回で9回目を迎えました！

2004

第1回 楽器の動物園

古楽器集団タブラトゥーラを招いて珍しい楽器をたくさん紹介。動物園かのように、ハンマーダルシマーやリュートなどの楽器を各部屋で見て回り、最後のコンサートに導きました。



2007

第2回 情熱のポレロ

初めて「おんぱく」の名で開催。基本的なスタイルは前回を引き継ぎました。地元アーティストの起用を重点に置き、愛知室内オーケストラ（指揮：山田和樹）を主軸としました。メイン曲はラヴェル作曲の「ポレロ」。



2009

第3回 真夏のラブソディ

ラブソディをテーマに、各国の民族色の強い作品でプログラムを構成。メイン曲は外山雄三作曲「管弦楽の為のラブソディ」で、参加者全員で八木節を創り上げました（愛知室内オーケストラ／指揮：角田鋼亮）。



2011

第4回 JAZZ夏でスウィング!

ジャズをテーマに、名古屋で活躍するC.U.G.ジャズオーケストラが登場。普段子どもたちがほとんど接する機会がない本格的なジャズを紹介しました。翌年（2012年）から始まるジャズ企画にもつながりました。



2012

第5回 オンガクで世界を溶かせ!

世界の音楽をテーマに、スウェーデン音楽界の巨匠アッレ・メッレル率いる多国籍バンドが登場。企画段階から市民ボランティアが参加して、世界中の音楽が融合し、「溶けて」一体化する参加型コンサートで締めくくりました。



2014

第6回 踊れ、オンガク!

ダンスをテーマに、さまざまな舞曲を紹介。この時限りの「おんぱくスペシャルオーケストラ」（指揮：高谷光信）を結成しました。2週間にわたり長久手市内の各所にて様々なイベントを繰り広げる新しい試みも行いました。



2016

第7回 この夏、長久手に音楽の王国が現れる!

新たな試みとして、企画段階から地元アーティスト、創造スタッフ、市民によるおんぱく実行委員会を結成しました。エルガー作曲「威風堂々」をメイン曲とし、音楽王国のストーリー仕立てでお送りしました（出演は第6回と同様）。



2018

第8回 ようこそ、夏の音楽バザールへ!

第7回は、ボロディン作曲「だったん人の踊り」をメイン曲とし、2か月間を通じて繰り返し演奏しました。楽曲のイメージから文化の家を音楽バザールと見立てました（出演は第6、7回と同様）。



2021

第9回 ジャズは祭りだ! 渋さ知らズオーケストラ

ジャズをテーマに、多様性を体現するアングラ集団「渋さ知らズオーケストラ」が出演。コロナ禍の中、多くの人におんぱくを楽しんでほしいという実行委員会の願いのもと、生ライブとリアルタイム配信によるハイブリッドライブが実現しました。



文化の家

10年間

長久手町文化の家が、「長久手市文化の家」になってからの10年を振り返りました！

▶…主な文化の家の公演

- ▶ 長久手町から 長久手市へ!!
- ▶ 長久手市制施行記念 coba produced みんなでつくる長久手大音楽会
- ▶ 長久手地域演劇祭

文化の家開館 20周年！

- ▶ コンドルズの遊育計画 in 長久手
- ▶ スティーヴン・イッサーリス チェロリサイタル

文化芸術 マスタープラン 策定！

改修工事 リニューアル オープン！ 2017



サンドウィッチマンが登場！

- ▶ 劇王 XI～アジア大会～
- ▶ 座☆NAGAKUTE 第30回公演
- ▶ 川上ミネピアノ&トークコンサート with サンドウィッチマン
- ▶ ニューセンチュリーコーラス Nagakute 第20回定期演奏会



- ▶ 矢野顕子ピアノ弾き語りコンサート
- ▶ グループる・ばる 「蜜柑とユウウツ～茨木のり子異聞～」

ながくてアート フェスティバル 10年目!!



不思議なシャボン玉アート

- ▶ 長久手市制5周年 第31回国民文化祭・あいち2016 「長久手人物語」

福祉施設を訪問する アウトリーチプログラム

2015



蜜柑とユウウツ

2018



世界的チェリストの名演が長久手で！



福祉施設で生演奏！

ふくしであーと 開始!!

- ▶ 虹のかけら ～もうひとりのジュディ (演出：三谷幸喜、主演：戸田恵子)
- ▶ 山下和仁ギターリサイタル

給食の時間にアーティストが突撃！



長久手オリジナル 給食ゲリラライブ！

2012



あのcobaが長久手に！

世界に向けて 生配信！

2021

渡さ知らズオーケストラ



芸術を止めない！



ソーシャルディスタンス コンサートの先駆け

2020

- ▶ 新型コロナウイルスの蔓延 緊急事態宣言…！
- ▶ 新型コロナウイルス感染症 対策モデルコンサートの実施
- ▶ 福祉施設でのバルコニーコンサートを実施

であーと 10年目！

- ▶ 第10回吹奏楽フェスティバル in NAGAKUTE
- ▶ ゲヴァントハウス弦楽四重奏団

※「であーと」とは……長久手市内の全小中学校をアーティストたちが訪問するアウトリーチプログラム。

2013

15周年 文化の家開館

- ▶ 館野泉&ラ・テンペスタ室内管弦楽団
- ▶ ジョイントフェスティバル愛知開始
- ▶ ブランデンブルク協奏曲全曲演奏会～ (フライブルク・バロック・オーケストラ)

おんぱく2021 開催





えんとゆかり

このコーナーでは各界で活躍中の文化の家ゆかりの人を紹介します!

学者
第6回 梶田 美香 Mika Kajita

ピアノ演奏から自分のキャリアが始まり、今は名古屋芸術大学で文化政策やアートマネジメントを教えています。演奏者から研究者へ転身する方は少しずつ増えていますが、まだかれこれ15年ほど前はめずらしかったと思います。「音楽が誰かの力になることを証明したい!」と飛び込んだ大学院では学術書や論文に埋もれて過去の研究を知ることから始まりましたが、いざ自分の研究を始めてみると、それはゼロから何かを創り出すクリエイティブな世界で、本当に夢中になりました。

「おんぱく」ができてからというもの、プロセに張りつき、当日は会場で運営スタッフに参加し、森のホールのコンサートでは涙を流しました。事業終了後に、アーティストや実行委員の皆さんにインタビューし、市民の皆さんとの座談会を開き、お客様のアンケートを集計・分析し、報告書にまとめました。企画スタートから調査報告書の完成まで、1年中「おんぱく」です! そんなご縁があり、今は運営委員として文化の家の活動に携わっています。これからも深い深いご縁がありますように!

そうこうしているうちに大学で教鞭を取るようになり、演奏者としてのご縁もあつた文化の家の「おん

今回はこの10年で変わった文化の家のことを紹介するよ



①子ども向けの公演が増えたよ
おんぱくや子ども向けの演劇公演、ベイビーシアターのような公演をたくさんやったよ。子育て中のお母さんやお父さんが、文化の家の公演にたくさん来てくれるようになったんだ。

②地域の人のいっしょに作り上げるものが増えたよ
文化の家の公演の中には、キッズダンス隊の発表会や吹奏楽フェスティバルのように、長久手の人が中心になって運営しているものもあるんだ。裏面で募集している合唱団や劇団、シネマ倶楽部もそうだよ。

③大きな改修工事があったよ
平成29年の2月〜6月に改修工事をしたよ。受付の場所が事務室の中からエントランスに出てきたり、楽器の練習をする人に人気の小音楽室が新設されたりしたんだ。



キッズサマーシネマ「ワンダー 君は太陽」

2021年8月21日(土) 文化の家 光のホールにて開催

毎年夏に上映している子ども向けの映画上映会。今回は、遺伝子疾患をもつ少年が社会と奮闘する様を描いた、愛と勇気の感動の物語を上映しました。

父親、母親、子どもとで、それぞれ見方が違うと思いますが、心にしみる物語で、泣きました……。
夏休みに家族そろって観る映画としては、とても良いセレクションでした。

談：竹上さん一家

ちょっといいですか?

このコーナーでは、文化の家事業にお越しいただいたお客様のリアルな声をお届けします。今回は、8月21日に行われたキッズサマーシネマ「ワンダー 君は太陽」に来てくださったお客様に感想を聞いてみました。



談：竹上さん一家

編集後記

今号は長久手市の市制10周年記念号として、「長久手市文化の家」となつてからの10年を振り返りました。いつもよりもページ数を増やした形で、ボリュームある「ハレとケ」になっています。
特集では文化の家の特徴でもある創造スタッフ制度を取り上げ、劇場とアーティストの関係をテーマに座談会を行いました。職員やアーティスト、そしてお客様—そこに人がいるから劇場は存在できます。座談会を通して、劇場は血の通った、常に成長を続ける有機的な場所であることが再確認できました。これからも成長していく文化の家にご期待ください。

ハレとケ編集担当:山本宗由

長久手市文化の家 情報誌

ハレとケ

ハレは非日常、ケは日常を意味します。文化の家は、練習場所となるアトリビング(ケ)と、発表の場であるホール(ハレ)を兼ね備えた劇場です。アトリビングでの稽古の成果をホールで披露する、ケからハレへという文化の家のコンセプトから、「ハレとケ」という誌名が生まれました。

第13号 2021年10月15日
発行:長久手市文化の家
印刷:ラクスル株式会社
デザイン:中村美月
編集:小島祐未子(家鴨の編集舎) / 山本宗由(長久手市文化の家)

プレイリスト

高校生の頃からいろいろな音楽プレイリストを作ることが好きでした。季節、天気に合わせてものからはじまり、通勤用、入浴用、大掃除用などいろいろ作ってきました。昔はCDやMDを使っていたのですが、最近ではサブスクの普及によりスマホにダウンロードしてプレイリストを作っています。編集のしやすさが格段に違うため、スマホにしたらプレイリストの数が急激に増えていきました。作ったプレイリストを聴いているときも楽しいのですが、どちらかというと作っている過程の方が好きです。旅の計画を立てているときの感覚に近いかもしれません。その中でも特に思い入れがあり、こだわって作っているのは「まち」に関するプレイリスト。生まれ育った「豊田」、学生時代を過ごした「湘南」、新婚旅行で行った「パリ」など、思い出も強烈にかかったプレイリストは自分専用のベストアルバムとも言えます。そんなプレイリストに最近加わったのが「長久手」です。豊田市からインターン研修で4か月間、文化の家にお世話になり、とても思い出深いまちになりました。研修期間中は「おんぱく2021」が開催されたこともあり、プレイリストには渋さ知らズオーケストラの楽曲が数多く含まれ、聴くたびにカラフルなウィッグやタスキ、巨大な牛が目につかなくて嬉しかったです。他にも事務所の電話留守メロディー、音楽デリバリーで創造スタッフのみなさんが演奏した曲など数多く入っています。

自分がつくった「まち」のプレイリスト全てに共通していることは、曲を聴けば当時の風景や思い出が必ずよみがえってくる、そしてなにより自分自身の心に残る忘れられない思い出であるということ。文化の家の研修期間は自分の人生の中ではほんの一部の出来事なのかもしれませんが、一生大切にしたい時間になりました。多くの貴重な経験と「長久手プレイリスト」を自分の財産として10月から豊田に戻り、改修後の市民文化会館でバリバリ働きたいと思っています! 4か月間お世話になりました!

私企画 長久手プレイリスト再生数ランキングトップ3!
1位「本多工務店のテーマ」渋さ知らズオーケストラ(おんぱく)
2位「情熱大陸」葉加瀬太郎(ホール見学SHOW)
3位「怪物」Y O A S O B I (中学校であーと)

※インターン研修生 児嶋のスマホ調べ

児嶋 界人

インターン研修生(豊田市民文化会館)



ホール見学 SHOW



おんぱく 2021



文化の家ギャラリーにて